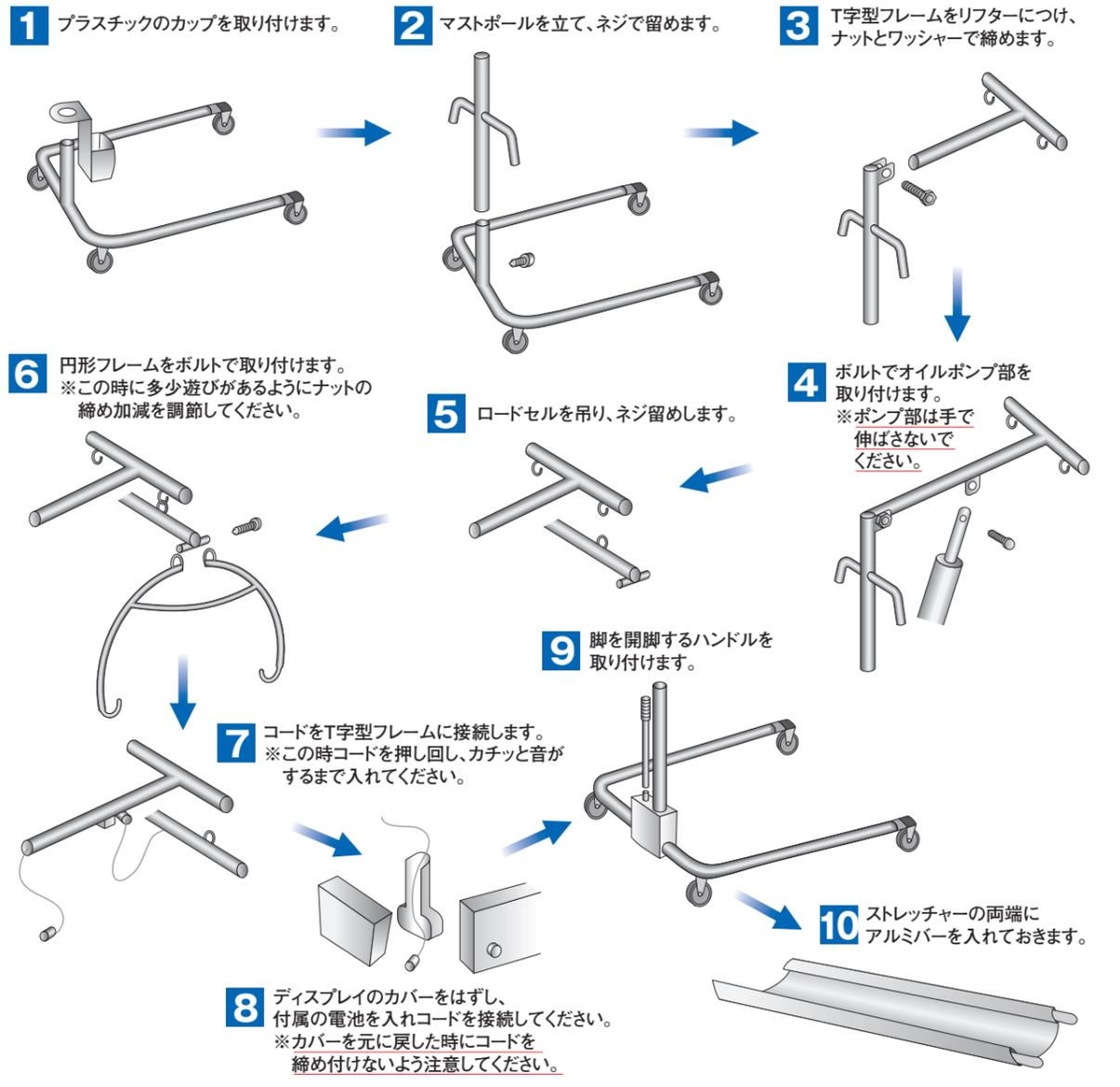


# 組立図



## 仕様

名称・形式	デイリーウエイスケール SR255
製造元	米国 SR Instruments, Inc.
使用目的	体重測定
使用センサー	ロードセルセンサ
測定範囲	181kg
精度	0.1%±1デジット
測定分解能	100g
使用電源	単1アルカリ乾電池6本
電池寿命	測定回数10,000回以上
精度保証範囲	+20℃～+30℃
使用湿度範囲	0%～85%
保存温度範囲	-10℃～+50℃
移動最小寸法	横635×奥行1060×高さ1320mm(ストレッチャー含まず)
脚寸法	閉時:横580×奥行1060mm 開時:横1040×奥行1060mm
ストレッチャー寸法	820×1890mm
梱包寸法・重量	横610×奥行1240×高さ370mm 45kg

※計量法に規定される、取引、証明行為には使用できません。

輸入元・販売元

**FujiKogaku** 不二光学機械株式会社

本社 〒113-0033 東京都文京区本郷3-35-4  
☎03-3813-3511(代) FAX.03-3813-3512  
事業所 〒340-0022 埼玉県草加市瀬崎町7-8-13  
☎048-929-3511(代) FAX.048-929-3512

ホームページアドレス <http://www.fujikogaku.co.jp>

**FujiKogaku**

簡単・スムーズ・安全  
デイリーウエイ スケール  
リフト式体重計 SR255



不二光学機械株式会社

# デイリーウエイスケールは181kgまでの、歩行困難な患者さんの正確な体重測定が可能です。

## 特徴

- 歩行困難な患者さんの体重管理に
- 181kgまでの体重を、100g単位でデジタル表示
- 簡単な操作性
- 測定部の電源は乾電池式なので、充電の必要はありません。



### 名称

- ① リフトベース
- ② バー
- ③ ディスプレイ・ユニット
- ④ ストレッチャーブラケット
- ⑤ T字型フレーム
- ⑥ ロードセル バー
- ⑦ 油圧ポンプ
- ⑧ ストレッチャーフレーム
- ⑨ ストレッチャーフック
- ⑩ ストレッチャー
- ⑪ ストレッチャーバー
- ⑫ 垂直フレーム
- ⑬ アンカースクリュー
- ⑭ ヘッドキャップ・スクリュー
- ⑮ ストレッチャーカップ

## ディスプレイの操作と表示

### [ZERO]

ストレッチャーの重さをキャンセルします。スケールにストレッチャーを吊り、このボタンを押して0.0KGに合わせます。この操作でストレッチャーの重さが記憶されるので、ストレッチャーを変えなければ、初回のみで2回目以降の操作は必要ありません。

### [HOLD]

測定値を記憶します。測定中にボタンを押すと測定値が固定され、20秒ごとに「ホールディング」の表示が2回出た後、10秒後に自動的にパワーオフになります。パワーオフの後でも、ボタンを押すと再表示します。

### [WEIGH]

体重を測定します。体重が表示され、35秒後に自動的に表示が消えパワーオフになります。ホールドを解除する機能があります。再表示中にボタンを押すとホールドが解除され「測定」に戻ります。

### [MODE] (KG)

計量単位は、キログラム表示に固定されています。



## 移動と格納

T字型フレームを下げ、はずしたストレッチャーを丸めてストレッチャーカップ(受け皿)に入れ、立てかけた状態で格納してください。



## 測定準備

**ZERO (ゼロ):** ストレッチャーの穴4カ所にスケールのフックを通し、ストレッチャーを吊ってください。それからZEROボタンを押して、0.0KGに合わせます。

**確認作業:** ストレッチャーを外すと、-3.9KG(例)になっていることを確認します。

**準備完了:** そしてもう一度フックを通しストレッチャーを吊り下げます。

**警告1** 必ずベッドの上でご使用ください。搬送には絶対に使わないでください。  
(※患者さんが落下して死亡事故につながる恐れがあります)

**警告2** 患者さんを載せる前に、リフトベースを必ず開脚してください。  
(※開脚しないとリフトが転倒し、患者さんや介護者の方がケガをする恐れがあります)

## 設置と測定

**1.** ストレッチャーをシーツ交換のように患者さんの下に敷きます。  
※この時、身長真ん中ではなく上半身の重さを考え、足首がはみ出す位が適当です



**2.** スケールを移動させ、リフトアップの安定のためにバーでリフトベースを開脚しておきます。**警告2参照**



**3.** フレームを下げストレッチャーのアルミバーにある穴4カ所にフレームのフックを通します。



**4.** アームで油圧ポンプをゆっくり操作し患者さんを持ち上げると、患者さんの体重が表示されます。  
※この時、器物に触れていないか周りを確認してください。

**5.** ベッドから10cm位浮き、揺れが停止したところで、[WEIGH]を押してください。体重が表示されます。例)60.3KG



**6.** 記録するために[HOLD]を押すと数値が固定され記憶されます。電池を消耗しないよう20秒で表示が消えますが、再度[HOLD]を押すと再び数字が表示されます。



**7.** 測定が終わったら油圧ポンプのレバーを操作し、ゆっくりとストレッチャーを下げ、ベッドの上に患者さんを降ろしてください。



**8.** ストレッチャーをはずし、シーツ交換のように患者さんの下からストレッチャーを取り除いてください。

**9.** ストレッチャーをはずすと数値は-3.9KG(例)と表示されますが、次回使用する時にストレッチャーを吊った状態で表示が0.0KG設定になるので、そのままにしてください。

**注意** 患者さんを乗せていない時もアームのリフトアップ&ダウンは手で行わないでください。  
(※油圧ポンプに空気が入り油圧ジャッキがうまく作動しない場合があります。もし、油圧ポンプに空気が入った場合、油圧ポンプのアームを使用しT字型フレームを最大に上げ、その後もアームを押し続け空気を抜いてください。)